

入退院支援に対する栄養士の関わりと今後の課題について

山地 聡子[†]

第74回国立病院総合医学会

(2020年10月17日～11月14日)

WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 3 (183-187) 2022

要旨

国立病院機構南京都病院（当院）は、昭和14年2月に傷痍軍人京都療養所として設立され、平成16年4月より独立行政法人国立病院機構南京都病院となった。335の病床をもち、結核、肺癌、慢性呼吸器疾患をはじめ、重症心身障がいや神経・筋疾患などの慢性疾患を対象として専門性の高い診療を継続してきた。

当院には、在宅酸素療法や人工呼吸器が必要な方、結核のように薬を確実に、そして継続して内服する必要がある方等がおられ、退院・転院時には医師やケアを行うスタッフとの情報共有が不可欠である。また、「入院時支援加算」や「入退院支援加算」が後押しとなり、入院までの円滑な情報収集と入院早期からの適切なケアが行われ、多職種で連携しながら日々患者の対応にあたっている。多職種でのカンファレンスを通して、退院・転院に向けての方向性や問題点をスタッフ間で共有することができ、時には栄養サポートチームなどの医療チームとも連携しながら各専門職種で役割分担できていると感じる。

このたび、診療報酬改定の流れとともに、当院における管理栄養士の関わりについて紹介する。また、NHO近畿管内病院と国立循環器病研究センターの施設のうち、主任・副室長が在籍する16の施設間で2019年度に行ったアンケート結果を紹介し、今後の課題を考察したので報告する。

キーワード 医療チーム、栄養サポート、カンファレンス

はじめに

厚生労働省は、2025年を目途に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進している¹⁾。その取り組みの強化として2016年度の診療報酬改定では、栄養指導料において対象および指導内容の拡充が図られた。2018年度の診療報酬改定では、退院時共同指導料について参加する職種

に管理栄養士が追加された。さらに、2020年度の診療報酬改定では、入院時支援加算において診療点数が2分化され、栄養評価など、よりきめ細やかな入院支援を行った場合に高点数となった。また、栄養情報提供加算の新設や栄養サポートチーム加算の対象病棟の拡充などもあり、栄養管理の重要性が認識され、地域社会への管理栄養士の役割について期待が寄せられていることと感じる。

国立病院機構南京都病院 栄養管理室 [†]管理栄養士

著者連絡先：山地聡子 国立病院機構南京都病院 栄養管理室 〒610-0113 京都府城陽市中芦原11番地

e-mail : yamaji.satoko.mq@mail.hosp.go.jp

(2021年3月17日受付, 2022年2月25日受理)

About the Next Challenges and the Involvement of a Dietitian for the Admission : Discharge Support

Satoko Yamaji, NHO Minami Kyoto Hospital

(Received Mar. 17, 2021, Accepted Feb. 25, 2022)

Key Words : medical team, nutritional support, conference